

## 令和5年度西予市市政懇談会 会議事録(要旨)

開催日時 令和5年9月21日(木) 19:00~21:11
開催場所 三瓶文化会館
出席者 参加者 55人 市側 12人 市長 管家一夫、副市長 酒井信也、教育長 松川伸二 総務部長 山住哲司、政策企画部長 宇都宮明彦 生活福祉部長(兼)福祉事務所長 一井健二、産業部長 和氣岩男 建設部長(併)水道事業担当(公営企業)三瀬計浩、医療介護部長 浅野幸彦 三瓶支所長 藤井兼人、教育部長 谷口佳代、消防本部消防長 宇都宮憲治 事務局他 5人
議事内容(要旨) 1 開会 2 市長あいさつ 3 懇談会のテーマ (1)組織再編について(総務部) (2)人口減少対策について(政策企画部) (3)市立病院、つくし苑の経営改革について(医療介護部)  事前質問:地域医療について (意見等) 県歴史文化博物館での、西予市立病院などを守る会の講演会に出席した。持続可能な病院経営について、指定管理制度を取り入れることによって、どういうことを目指しているのか。主に財政面や人口減少による医師、看護師不足などを回答いただきたい。 (回答:医療介護部長) 令和4年度の3施設への繰出金の合計額は約11億1399万1000円。うち一般財源からの繰出金は3億4860万7000円。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の平成29年度は、繰出金の合計額は約6億1833万4000円。うち一般財源からの繰出金は約1億6582万2000円となっている。令和4年度の一般財源の繰出金は、平成29年度と比較して著しく増加し、5年で2倍を超えている。3施設への一般会計からの繰出金が3億以内に納まるよう、3施設の経営の効率化を目指している。 人口減少による医師、看護師不足について、地域医療振興協会が指定管理を委託している4施設は、地元大学の医学部との関係性を構築して医師確保ができています。医師確保は、ある程度期待できていると感じています。看護師については、全国的にも看護師不足は深刻な状況。少子高齢化の影響による看護師を目指す学生数が減少していること、若い看護師は、経験を積むために、都市部の病院を希望する人が多いということがあり、地方で看護師不足の要因と感じています。 状況を打開するために、地域医療振興協会の充実した研修や教育によって、病院の魅力を高め、看護師確保に積極的に取り組んでもらえると期待しています。 (意見等)

資料の中にある「地域保健医療における重点項目」と協定項目の内容が異なるのではない。以前の説明では、4項目目は「指定管理者制度」だったと記憶している。

当直医に大学の医師の応援に加えて、市内の個人病院の医師にも担当してもらってはどうか。

(回答:医療介護部長)

お見込みのとおり。協定項目には指定管理者制度導入を含めた3施設の安定的な経営方法の提案及びその実施に向けた提案となっている。しかし、この重点項目と協定項目は必ずしも一致するものではない。協定の方がより細かくなっている。どちらも地域医療福祉を継続するためという目的は相通ずるものがある。

当直医確保については、西予市医師会にも打診している。しかし、個人病院の医師も高齢化していて難しい状況。ただ、日中の一部の勤務時間は協力していただける可能性がある。

(4)その他(意見交換)

事前質問:旧蔵貫小学校及び旧蔵貫保育園施設活用について  
(意見等)

旧蔵貫小学校校舎、体育館、グラウンド、保育園園庭の保全をおこなっているが、本格的な施設の再利用ができないか検討している。校舎活用は、規模が大きく維持管理費が高額になるため、全施設の利用は困難だが、部分的な活用は可能であると考えている。2月にも、校舎を使った模擬ライブを行ったが、予想以上の参加者があり、手応えを感じた。地域の基幹産業であるみかん農家へのアルバイトの宿泊施設として、大学生の合宿所やジオパークを絡めた海、山へのレジャー客の休憩所その他のイベント会場の1つとして活用を検討していく。地域からの提案が前提であるが、市として、廃校の活用ビジョンはあるのか。蔵貫小学校校舎内にはランドピアノなどの使える備品もある。施設内の備品使用についても市の考えを聞きたい。

(回答:総務部長)

市で定めた西予市公共施設個別施設計画では、旧小中学校及び保育園については、普通財産として扱っている。基本的な方針としては、普通財産は目標を達成しているため、今後建て替え、改修、修繕等は実施しないことが原則。

旧蔵貫小学校の施設の方向性は、現在のところ「検討」。民間事業者とも協議しながら、提案等も受け、利用を考える。利活用の見込みがない場合は、除却解体する。旧蔵貫保育園は当面、利用可能なため、活用方法は検討しているが、具体的なものは定まっていない。今後、提案等があれば検討していく。

次に貸付けに関しては申請をいただくことになっている。改修などは借り受けた団体等の責任で行う。貸付けできるのは、耐震基準を満たしている施設で、数日だけの一時的な使用に関しては、事業内容も適性と判断された場合。施設の長期的な部分貸付けは行わないこととしている。しかし、複数の団体が共同して、施設全体を借受ける場合や、施設が完全に分離している場合は総合的に判断する。

施設内の備品も普通財産。旧校舎等に附帯するもののため、施設を借り受けた団体が使うことは差し支えない。本来は不要な備品は早期に処分をする必要があるが、現段階では財政的な理由もあり、実施していない。時期を見て、今後処分等を検討する。

(意見等)

説明は十分理解はできたが、現状を聞くと、蔵貴小学校の活用は最終的に何も出来ない。おそらく活用は不可能と思う。今使える施設があるなら一部貸出も認めてほしい。他の地域では柔軟に活用しているところもある。ぜひ検討いただきたい。

(回答:総務部長)

廃校の活用については平成 27 年頃に各地域に調査をしている。狩江小のように現在も利用している施設もある。使えるものは使ってもらいたいと思うが、具体的な計画等があって、それに基づいた運用が今後も継続的にできるかを判断できないと難しい。

(意見等)

以前、米博物館でピアノが復活したという記事を見た。蔵貴小のピアノもまだ使えるし、廃校になった学校には使える備品がまだある。備品の有効利用をもっと積極的に検討してほしい。

(回答:市長)

過去に学校備品を販売したこともある。地域で備品を活用したいという要望に関しては前向きに考えるので、まずは提案をいただきたい。

事前質問:地域防災について

(意見等)

先般、三瓶東地区で防災計画協議とワークショップが行われたが、今後、南地区での開催予定はあるのか。

(回答:総務部長)

本市では南海トラフ巨大地震に事前復興、防災の取組を推進することを目的に西予市事前復興計画を策定している。三瓶東地区をモデルに三瓶東地区事前復興まちづくり計画を策定した。今年度は沿岸部、山間部各1地区ずつ、ワークショップ等を行う予定。事前復興まちづくり計画策定のためのワークショップは、今後も多くの地域で計画的に実施をしていきたい。

(意見等)

市民病院は市民のための病院。それをいきなり地域医療振興会にゆだねるのはおかしい。もっと経営努力が必要なのでは。

(回答:市長)

ある程度税金投入は必要だと思うが経営改革は必要。現在は地域医療振興協会に分析などをお願いしている。まだ指定管理が決定したわけではない。地域医療検討委員会委員の意見などを聞きながら、総合的に判断していく。

(意見等)

3つ質問させていただく。

①議会で令和 6 年 3 月 31 日に可否を決めるとあったが、具体的には何を決めるのか。

②二次救急集約にあたり、どのような進捗状況か。課題は何なのか。三瓶は令和7年から西予市消防に入る。野村病院に搬送となるとかなり距離がある。何とか集約を間に合わせてほしい。

③以前、病院に関する市民向けの研修会で西予市が病院経営にあたり、受け取るべき交付金を受け取っていないと講師が話したと新聞報道された。それに関してどうか。

(回答:医療介護部長)

①指定管理者をどこに指定するか議決。

②二次救急集約については、市民病院、野村病院、つくし苑の職員、医師、市職員も含めた3施設合同検討会中で協議をしている。まだ締結には至っていないが、令和6年4月1日を目標に調整している。

(回答:総務部長)

③報道されたのは、病床数を変更すると数千万円いただけるというもの。こちらで算定方法に誤りがないかを確認したが、正しかった。講師はSNSで訂正し、主催団体からは謝罪があった。市としては今後この件について、追求するつもりはない。

(意見等)

先ほど医療介護部長の回答だと、令和6年3月に指定管理者をどこにするか議決することだった。ということは、指定管理者に移るということは決定しているのか。

(回答:総務部長)

指定管理者は、公募や選定をして候補者を市が決める。その後に候補者に関する議案を議会に出し、議決を受けるという手続き。

今回の指定管理に関しては最短で年明けぐらいに、協会から提案を受けて内部で調整し、指定管理者として決めたら3月議会に上程をして、議会に判断を仰ぐ流れ。

指定管理者の正式な申請が出て、2月末までに条件なども調整できて、3月議会に上程できれば、3月議会で指定管理者の可否が決定ということになる。提案された内容の調整などが長引けば、6月議会やそれ以降になることも考えられる。

(意見等)

先ほどの説明の中で、二次救急集約の見通しを令和6年4月1日と言った。指定管理者制度と時期が合わないように思う。三瓶としては、二次救急を集約してほしいと考えているが、指定管理者に委託した場合は集約されるのか。

(回答:医療介護部長)

二次救急集約と指定管理者制度導入は全く別物。二次救急集約はなるべく早く取り組みたい。

(回答:市長)

二次救急の集約には早く取り組みたいと思ってる。また指定管理者制度を導入した場合でも二次救急をやってもらうことは条件に入れる。指定管理者委託が延びたとしても二次救急集約は早く取り組む。

(意見等)

八幡浜消防第三分署が西予市消防に入るにあたり、現状の人数は確保するという話になっていたが、採用計画などはどうか。

(回答:消防長)

統合する令和7年4月から第三分署職員数を16人の2交代制。夜間も5人体制とする予定。八幡浜消防と現在協議し、スムーズな引き継ぎができるよう計画を進めている。採用計画では、令和6年度に6人程度を採用する予定。

(意見等)

西予市の病院が黒字になるためには、患者数と入院者はどのくらいいけばいいのか。

(回答:医療介護部長)

今、具体的な数字を申し上げることはできない。ただし、診療報酬を効率よく得るための経営をしていく必要があると考えている。来院者を増加するには評判だと思っている。評判が良くなる病院を目指す。

(意見等)

病院はできれば行きたくない場所。市民が待ち時間を長く感じないためにテレビを置くとかは検討されたのか。置いていないところの方が少ない。

(回答:三瓶支所長)

当時を知っているものとして回答する。テレビ設置に関しては建設時に十分検討して、置かないこととした。

(意見等)

小規模多機能が始まって半年たった。各地域の活動状況はどうか。

センターの取り組みが他の課に伝わってなくて、市の職員同士の連携ができていない。地域の活動に対して、柔軟な発想で実行してほしい。

(回答:政策企画部長)

センターの利用状況については、まちづくり推進課に報告がある。

職員同士の連携についても、課題状況の整理表を作成したり、毎月会議を開催するなどして、連携して業務ができるよう進めている。

(意見等)

二及の老人ホーム三楽園。ここは市の土地なのに、なぜ運営事業者が入札するのか。

(回答:総務部長)

三楽園の建設は運営事業者の施設として建設している。これに市が関与することはない。

(回答:市長)

三楽園の施設は今後、運営事業者の施設として維持管理されていく。経費などを踏まえ総合的に考えて今回のやり方を行った。法的な瑕疵はない。

(意見等)

ジオパークの理念は。

(回答:市長)

ジオパークの海拔 0mから 1400mには文化や生活などさまざまなものがある。そういった特徴を踏まえて西予市が1つになるためのツール。

(意見等)

高齢者が命を預けるところは病院です。二次救急の集約をはじめ、自然災害などにも対応できる力強い市民病院にできるよう取り組んでほしい。

4 閉会のあいさつ

副市長

5 閉会